

## MY Pにおける保健体育科の取り組み

### －身体コーディネーションの試み－

#### 保健体育科

板村邦弘 深澤祐美子 加藤英明 大川健介 高橋直樹 千葉克之

#### 1. はじめに

平成19年度より、附属大泉中と附属高校大泉校舎が、「東京学芸大学附属国際中等教育学校」として1年生（中学1年生）として開設し、本年は、5年生（高校二年生）まで完成してきた。

国際中等教育学校では、各教科、IB（国際バカロレアプログラム）の中期段階としてのMY P（ミドル イヤーズ プログラム）カリキュラムの作成と、それに伴う評価についての研究が求め、本校保健体育科でも進められており、中学、高校期を見通したMY Pカリキュラムの作成が求められ、現在に至っている。

#### 2. 保健体育科の目標

年度当初保護者に対して、以下のような説明文を各学年に配布し、1年間の体育・保健についての学習内容や評価を全学年に対して説明している。参考ではあるが、下表は、1年生保護者に示したものの抜粋である。

保健体育科では6ヵ年を通して、次のことを目標として、学習を進めます。

体育：国際社会の一員として心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上のための基礎・応用を学び、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

保健：個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

以上のような点を具現化するために1年生では以下のような学習を行っていきます。

##### (1) 学習内容

###### 体育

- ①体づくり運動（4月～5月）
- ②陸上競技Ⅰ（短距離を中心として）（5月～6月）
- ③水泳基礎Ⅰ（6月～7月）
- ④球技基礎Ⅰ（9月～10月）
- ⑤陸上競技基礎Ⅱ（11月～12月）
- ⑥器械運動基礎Ⅰ、身体コーディネーションⅠ（1月～3月）

保健①心身の機能の発達と心の健康（4月～3月）

②体育に関する知識（6月～7月）

**(2) 評価方法**

(1) MYP評価規準

- |     |                     |
|-----|---------------------|
| 規準A | 知識の活用（8点満点）         |
| 規準B | 運動の構成（6点満点）         |
| 規準C | 運動の技能（10点満点）        |
| 規準D | 社会的スキルと個人的な関与（8点満点） |

**3. 本校での保健体育科でのMYP取り組み**

**(1) MYPから見た保健体育科**

MYPでは、AREA OF INTERACTION（以下AOIと略）は以下の5領域から成り立っている。学習方法であるATLという概念をカリキュラムの中心に捉え、学習に必要な技能を発見してそれを習熟することが、様々な学習分野で重要であるとIBは述べている。

- ①Approaches To Learning(ATL)学習方法
- ②Environment(E):環境
- ③Health & Social Education(HS):健康・社会教育
- ④Community Service(CS):地域奉仕活動
- ⑤Homo Faber(HF):創造する人間

**(2) MYPから見た保健体育科の評価**

MYPは、各教科について、7段階絶対評価基準表に基づく評価を義務づけている。保健体育科では、下記4種類の評価基準毎に絶対基準に当てはめて、評価点を与えられその総合計得点が最終的に7段階に評価される。現在、中等学校1～3年生は、保健と体育を混入した形で評価し、4年生に関しては、体育と保健を分けてはいるが7段階評価をしている。

**観点A 知識の活用 (Use of Knowledge 8段階)**

運動やスポーツ・健康に関する知識や原則について十分に理解し、自らや他者へ活用することができる。運動・スポーツの楽しさや喜びを体得できる。将来のスポーツライフの基礎を学習することができる。また、生活において運動やスポーツ心身にわたる効果や基礎的な事項を理解することができる。

**観点B 運動の構成 (Movement Composition 6段階)**

運動やスポーツの特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決に対して工夫を凝らして、活動のしかたを考え、実践・応用する能力を身につけることができる。

**観点C 運動の技能 (Performance)**

自己の能力に適した課題の設定・解決をめざして運動を行うとともに、運動の特性に応

じた技能の基礎を身につけ、応用することができる。また、個人およびグループのいずれの状況でも戦術等を応用することができる。また、自己の体力や生活に応じて健康や体力を高めるための原則を利用して、運動の合理的な実践を行うことができる。

#### 観点D 社会的スキルと個人的関与 (Social skills and personal engagement)

他者との運動やスポーツの学びを通じて公正、協力、責任などの態度を尊重する能力を身につける。また自己ならびに他者の健康ならびに環境の安全について考えることができる。

異文化・日本の伝統文化にある運動・スポーツへの認知・理解を高める能力を身につける。

### 4. MYP概念から見た身体コーディネーション

身体コーディネーションは、領域として健康・社会教育、創造する人間という領域に属する位置づけとして考えている。学習法一般ではあるが、従来の講義式以外にグループワーク、ペアワーク、プロジェクト、発表等々の授業形態、運営方法が考慮されるものである。生徒の自主的作業をその授業の一部として活用する。教え込みではなく、学習の多角的実践を取り入れた授業といえるであろうと言われている。身体コーディネーションの時間においては生徒達相互による発展性や創造性を引き出すこともでき、学習課題としての難しさも存在する。一年生時には身につけて欲しい運動感覚（自己の体を操る）なので今回試みてみた。十分な検討を経ているとは言い難いが、本校生徒に養ってほしい内容も含まれていると考えた。

### 5. 身体コーディネーションの提案

#### (1) 提案理由1

子ども達の体力・運動能力は1978年をピークに現在まで低下傾向を示している。さらに現在では、体力・運動能力の高い子どもと低い子どもとの二極化現象や肥満傾向の男子の増加が顕著になってきている。また、子どもの体力不足や生活習慣病の招来、人間関係の希薄化やコミュニケーション能力の低下、創造力や生きる力の低下という問題も起こっていると考えられている。このような社会現象の中で本校だけが別とは言い切ることができない。

本校では、生徒達は様々な交通機関を利用しながら、多くの通学時間を要している。千葉県、神奈川県から通学している生徒もいる。本校が中等教育学校として中高一貫となり、特色ある学校として存在するにあたり、一週間の時間割では、毎週火曜日、木曜日は七時間授業、他の平日は、月、水、金曜日は六時限であるが、清掃、短学活がある。部活動においては、中高生が同時に行うために十分な活動時間や活動場所を確保するには難しくなっているのが、現状である。運動やスポーツを行う環境にあるかといえば、日常の生徒達は忙しく、通学時間も長い者もあり、十分には言い難い状況にある。今後、未来の世界を背負う子ども達のために、体育の学習活動をどのように系統だてるかをもう一度検討すべきであると考えた。

## (2) 提案理由 2

本校がMYPの実践を始めて、4年間が過ぎようとしている。昨年度まで三学期において、一年生は器械運動（マット、跳び箱）を行っていたが、本年度より、マットと身体コーディネーションを組合せ、二年生時に（マット、跳び箱）を行った。その変更理由は以下のような点が挙げられる。

- ・マット、跳び箱を同時期に行うという点（一年次はマットだけでいいのではないか）
- ・生徒の運動能力の二極化があり、できる・できないが明確になってしまう器械運動を三学期間行うより、生徒が運動に関心を持ちチャレンジしたり、発見できたり、創造したりできる運動を考えられないだろうかという点
- ・全ての運動は、身体操作（自己の体を操る）ことによって成立する。体を操ること動かすこと、動かし方を工夫することは、体育の中核となる学習内容であり、操るという視点で授業を考える事はできないであろうかという点

以上のような点から身体コーディネーションと名付けて授業を模索した。

## (3) バランスの力を高める

運動・スポーツが上手であるもしくは下手であるという表現はあるかもしれない。しかし、特定の運動・スポーツにおいて上手なことが、全ての運動・スポーツが上手にできることにつながるわけではない。例えばサッカーのパスやシュート技能が高いことが、なわとびを上手にとべることにはつながっていないのは、体育指導に携わっている者であれば、その経験知から得ていることと思う。学習の転移が期待できる類縁性の高い運動技能はあるが、運動の類似性が高いことは稀でほとんどの運動では大きく異なっており転移は生じないと言われている。<sup>1</sup> マット、跳び箱の器械運動ではどうであろうか。

高橋は、「子供達は、さまざまな特質（運動様式）をもったスポーツ的運動の意図的・計画的な学習を通じて、現代社会に生きる人間としてふさわしい身体的能力をはじめ獲得していくことができると考えるべきであろう。」<sup>2</sup>と述べ、くわえて以下のように続けている。「われわれの身体存在のしかたを日々の生活の中で捉え直してみると、そこには生きる身体（生物的身体）、働く身体（社会的身体）のほかに、身体そのものを対象として遊戯し、表現し、創造する身体位層が存在することに気づかざるをえない。」<sup>3</sup>と述べている。今まで、器械運動を指導していて、運動の行い方、できるための運動方法だけを生徒に押しつけてはいなかっただろうか。例えば、確かに倒立は、学年によっても異なるが、多少なりともできる生徒はいる。身体的能力が身につけている、身につけることができ、それは能力が高まったというように判断することもできる。しかし、スポーツ・運動に対する技能が未熟な場合は、本人の保持している資質もあるが、その時間はその運動ができない苦しみを味わうことになるかもしれない。そのような点からもこの身体コーディネーションには、身体的自由さ、できそうでできないかも、もっとやってみたい、仲間と工夫ができるというような遊び的な要素を入れて求めてみようとした。

身体操作（自己の体を操る）という基本的な運動の視点から器械運動とはまた違った角度で検討してみたこともこの授業の特色である。遊び的な要素を入れ、むしろ器械運動で技を指導する前段階の身体操作（自己の体を操ること）を主となるように考えた。

研究を始めてまだ日が浅いので十分とは言えないが、おもにバランスの力を高める運動に焦点をあて、それら多く取り入れた形で授業提案とした。

(4) 生涯スポーツの観点から

生涯スポーツの立場から言えば、器械運動は生涯スポーツのための体づくり、身体操作という面では、身体への貢献は高いと思う。しかし、生涯スポーツを念頭におけば、自分の体に気づく、体のバランス能力を高める動き、タイミングのよい動きなど今後の子供達の成長過程で、この身体コーディネーションの授業は、器械運動と同等もしくはそれ以上に有益なものになるのではないかと思っている。学習指導要領内に器械運動としてマット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動として位置づけられている。それを既成のスポーツ種目として成立させ、それをカリキュラムの中に埋め込んでしまって学校現場で実践されているのが現状ではないだろうか。すなわち「身体遊び」の視点ではなく、極論すれば、学習指導要領にあるから授業で行っているというところからスタートしている気がしてならない。この授業は、「身体遊び」の視点を持ち、子どもの身体操作の基本的な部分を養うものであるからという認識で、授業を企画し、構成している。

：1

2010年度 身体コーディネーション 単元計画

図1

回	テーマ	内 容
1	オリエンテーション 大なわとびをやってみよう	・この身体コーディネーションで学ぶこと ・ものごとをうまく行う力とは？それを養うことは？
2	大なわとびをやってみよう ダブルダッチ(WD)に挑戦	・なわの基本的な動きを知る ・むかえなわに挑戦 ・ダブルダッチのなわを回せるかな ・ダブルダッチに挑戦
3	ダブルダッチ(WD)に挑戦 ダブルダッチを全員一回は跳べるかな	・ダブルダッチにはむかえなわをとぶことをマスターしよう ・ダブルダッチの入り方に工夫しよう。 ・グループでお互いにアドバイスをしあいながらダブルダッチを1回を跳ぼう ・コンディショニングボールを使ったトレーニングをやってみよう。(腕一足 一体験)
4	ダブルダッチ(WD)に挑戦 バランスボード(BB)をやってみよう コンディショニングボール(CB)をやってみよう スラックライン(SL)をやってみよう	・ダブルダッチの入り方に工夫しよう。 ・バランスボードプログラムの紹介 ・コンディショニングボールを使ったトレーニングをやってみよう。(腕一足 一体験) ・グループごとの活動をしていこう
5	ダブルダッチ(WD)に挑戦 バランスボード(BB)を工夫しよう コンディショニングボール(CB)をやってみよう(腕 を使う) スラックライン(SL)の距離を考え、やってみ よう	・ダブルダッチ一回はとべるようにしよう。 ・バランスボードプログラムの紹介 ・コンディショニングボールを使ったトレーニングをやってみよう。(腕一足 一体験) ・グループごとの活動をしていこう
6	ダブルダッチ(WD)に挑戦 バランスボード(BB)を工夫しよう コンディショニングボール(CB)をやってみよう(足 を使う) スラックライン(SL)の距離を考え、やってみ よう	・ダブルダッチ一回以上はとべるようにしよう。 ・バランスボードプログラムの紹介 ・コンディショニングボールを使ったトレーニングをやってみよう。(腕一足 一体験) ・グループごとの活動をしていこう
7 (本 時 )	ダブルダッチ(WD)に挑戦 バランスボード(BB)を工夫しよう コンディショニングボール(CB)をやってみよう(体 幹を使う) スラックライン(SL)の距離を考え、やってみ よう	・ダブルダッチ三回はとべるようにしよう。 ・バランスボードプログラムへの挑戦 ・コンディショニングボールを使ったトレーニングをやってみよう。(腕一足 一体験) ・グループごとの活動をしていこう
8	ダブルダッチ(WD)に挑戦 バランスボード(BB)を工夫しよう コンディショニングボール(CB)を工夫してやっ てみよう(体幹を使う) スラックライン(SL)の距離を考え、やってみ よう	・ダブルダッチ五回はとべるようにしよう。方向変換してみよう。 ・バランスボードプログラムへの挑戦(タイムトライアル) ・コンディショニングボールを使ったトレーニングを部位に分けて考えよう。 ・スラックラインの使い方を工夫しよう ・グループごとの活動をしていこう
9	まとめ	今までの工夫各活動場所でのプレイをお互いに共有する。 各グループより紹介する。

6. 授業実践

(1) 取り組み

本年は、4つの項目(スラックライン・バランスボード・コンディショニングボール・ダブルダッチ)を取り上げ、授業で取り組みをしてみた。

各項目においては、評価到達基準を設定し、個人でも挑戦できるようにした。

(2) MYP における身体コーディネーションの評価

体育  
標準 B 運動の構成  
身体コーディネーション

表 2

	0	1-2	3-4	5-6
	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。 ・SL、BBにおいて基本的なバランスを取るための動作や動き作りをしようとしていない。 ・CBにおいて、単純な動きを作ろうとしている。 ・WDにおいて、跳び始めを理解しようとしている。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。 ・SLにおいて、身体を使い、ライン上を渡るコツをつかむことができてはいる。 ・BBにおいて、初歩的なバランスをとることができはいる。 ・CBにおいて、動き作りやバランスに取り組んでいる。 ・WDにおいて、跳び始めを理解して、跳躍の中で動きを工夫しようとしている。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。 ・SLにおいて、身体を使い、自由にライン上で動きを工夫しようとしている。 ・BBにおいて、やや複雑なバランスをとろうとすることができはいる。工夫しようとしていて、工夫している。 ・CBにおいて、一連の動きを計画し、動き作りやバランスに取り組んでいる。 ・WDにおいて、スムーズに動くことができ、グループで跳躍の中で動きを計画したり、工夫したりすることができる。
	動きや技の構成が単純で一連の動きになっていない。	・他者からのアドバイスについて理解困難である	・他者からのアドバイスについて大まかではあるが理解できるようになっている。	・他者からのアドバイスについても理解できるようになっており、自らもアイデアを出し、工夫を凝らそうとしている。
	運動の構成において、必要な動作や適切な動作、美的な動作などを一連の動きとして計画し、組み立てることができる。			
	一連の動きや技の構成などがスムーズに関連されている。			

注 SL スラックライン  
BB バランスボード  
CB コンディショニングボール  
WD ダブルダッチ

体育  
標準 C 運動の技能  
身体コーディネーション

図 3

	0	1-2	3-4	5-6	7-8	9-10	
	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	
	さまざまな活動の中で、基礎・基本的な運動を利用することができない。課題を解決の仕方を他者に伝えることができない。	SL・BBにおいてバランス等を全くとることができない。 CBにおいては、課題を捉えることができず、他者と協力し解決することに取り組むことができない。 WDへの入ることができず1回も跳ぶことができない。	さまざまな活動の中で、基礎・基本的な運動を利用することはできない。課題を解決の仕方を他者に口頭だけで伝えることができる。	SL・BBにおいてバランス等を十分にとることができない。基本的なバランスのとり方をまだ十分に利用することができない。 他者への運動への成立にむけて、協力はするが十分ではない。 CBにおいては、課題を捉えることがまだ十分ではない。他者と協力し解決することに取り組むことに関わっていない。 WDで縄への入ることができ、1回は跳ぶことができる。	さまざまな活動の中で、基礎・基本的な運動を利用することができないが、課題を解決の仕方を口頭や実技で他者に示すことができる。	SL・BBにおいてバランス等を十分にとることができはいる。基本的なバランスのとり方を活用し運動に取り組むことができる。 他者への運動への成立にむけて、協力をすることができる。 CBにおいては、課題を捉えることができはいる。他者と協力し解決することに取り組むことに関わろうとする。 WDで縄への入ることができ、3回は跳ぶことができる。ステップを使って身体方向を変化させることができる。	さまざまな活動の中で、やや不十分ではあるが基礎・基本的な運動を利用して課題を解決の仕方を他者に示すことができる。
	個人やグループで、作戦や戦術を考えずに攻めたり、チャレンジしたりする。	各項目への特性を考えた取り組みができず、最低限のチャレンジをすることができない。	個人やグループで、あまり作戦や戦術を考えずに攻めたり、チャレンジしたりする。	各項目への特性を考えた取り組みが少しでき、チャレンジをしようとする姿勢が見ることができ。	個人やグループで、ややあいまいな作戦や戦術を使って、攻めたり、チャレンジしたりすることができる。	個人やグループで、十分ではないが少し基本的な作戦や戦術を使って、攻めたり、チャレンジしたりすることができる。	
	基本的で簡単な運動を理解することができていない。その運動をおこなうことができなかったり、表現することができない。	各項目において、基本的な運動への取り組みが疎雑で、より向上しようとする姿勢が見られず、運動への工夫が見られない。	基本的で簡単な運動をあまり理解することができていない。その運動を十分にこなうことができなかったり、表現することができない。	各項目において、基本的な運動への取り組みに少し積極性が見られ、より向上しようとする姿勢が見られ、運動への工夫が若干見られるようになってきた。	基本的で簡単な運動を理解し、その運動を十分ではないがやや円滑におこなうことができたり、表現することができる。	各項目において、基本的な運動への取り組みに積極性が見られ、より向上しようとする姿勢が見られ、運動への工夫が顕著に見られるようになってきた。	
	さまざまな活動の中で、基礎・基本的な運動を利用することができない。	SL・BBにおいてバランス等を十分にとることができはいる。基本的なバランスのとり方を活用し、応用的な運動に取り組むことができる。 他者への運動への成立にむけて、さまざまな形で協力をすることができる。 CBにおいては、課題を捉えることができ、取り組むことに関わろうとする。 WDで縄への入ることができ、8回以上は跳ぶことができる。ステップを使って自由に身体方向を変化させることができる。	個人やグループで、十分ではないが少し基本的な作戦や戦術を使って、攻めたり、チャレンジしたりすることができる。	各項目への特性を考えた取り組みができ応用的な運動を生み出そうとしている。仲間と協力し、チャレンジをしようとする姿勢が見ることができ。	さまざまな活動の中で、基礎・基本的な運動を利用して課題解決のしかたを他者に示すことができる。	SL・BBにおいてバランス等を十分にとることができはいる。基本的なバランスのとり方を活用し、応用的な運動にチャレンジし、工夫し取り組むことができる。 他者への運動への成立にむけて、さまざまな形で協力をすることができる。 CBにおいては、課題を捉えることができ、取り組むことに関わろうとする。 WDで縄への入ることができ、8回以上は跳ぶことができる。ステップを使って自由に身体方向を変化させること、新たな動きを作り出すことができる。	
	個人やグループで、基本的な作戦や戦術を使って、攻めたり、チャレンジしたりすることができる。	各項目への特性を考えた取り組みができ応用的な運動を生み出そうとしている。仲間と協力し、チャレンジをしようとする姿勢が見ることが顕著に観察することができる。					

SL スラックライン  
BB バランスボード  
CB コンディショニングボール  
WD ダブルダッチ

体育

規準 D 社会的スキルと個人的関与

図4

ISS1		
0	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。
1-2	自分またはグループでの疑問や問題点、改善点に気づかず、そのままにしてしまう。コミュニケーションが不十分で、建設的な方向へ伝えることができない	他者と協力ができず、相談したり、アドバイスしたりすることができない。自分やグループの問題点、疑問点も満足することができない。
	友達と力を合わせたりすることができなく、自分から積極的に関わり学習に取り組むことができない	運動に対して、他者と協力することができず、取り組みが不十分であり、消極的である。
	自他の文化を尊重することができず、人に対する心遣いに不十分な面が多くの場面で表面化していることがある	
	運動・スポーツなどの学習を行う上で、それらに対する熱意にかなり乏しく、それらを行うための責任を十分に果たす努力をしないことが頻繁に見られる	授業の準備や片づけへなど自己やグループの責任を十分に果たすことができず、それらに対する改善することもできない。
	自分や仲間との達成感を味わうための簡単な目標作りができない。それを達成や反省を生かすことができない	学習カードの記録内容が、できなかったなどの記録だけで内容的な面で乏しい。学習カードを全く提出することができない。
3-4	自分またはグループでの疑問や問題点、改善点に多少なりとも気づき、言葉や言葉以外の図などを用いるが、伝えることと不十分などがある	他者と協力をしようとする姿勢が出ており、少しずつではあるが相談したり、アドバイスしたりするようになっている。自分やグループの問題点、疑問点があるが、具体的な解決策を考えることができない。
	友達と力を合わせたりする力が弱く、自分から少しではあるが前向きに学習に取り組んでゆくことができる。	運動に対して、最低限ではあるが他者と協力することができ始め、取り組みが若干見れるようになってきた。しかしその取り組みはまだ、不十分であるが、積極的になりつつある。
	自他の文化を尊重することができるが、人に対する心遣いに不十分な面がときどき表面化していることがある	
	運動・スポーツなどの学習を行う上で、それらに対する熱意にやや乏しく、それらを行うための責任を十分に果たせないことが時折ある	授業の準備や片づけへなど自己やグループの責任を十分に果たすことができず、それらに対する改善することもできない。
	自分や仲間との達成感を味わうためにややあいまいな目標作りを計画するが、それを達成や反省を生かすことがやや不十分である	学習カードの記録内容が、できなかったなどの記録だけでなく、内容的な面で取り組みへの記録が十分とは言えないが、残されている。学習カードの提出が悪い時があるが、自己の歩みを知る記録となりつつある。
5-6	自分またはグループでの疑問や問題点、改善点に気づき、言葉や言葉以外の図などを用いて、基本的なコミュニケーションを使いながら伝えることができる	他者と協力をしようとする姿勢が出ており、少しずつではあるが相談したり、気付いたことを互いにアドバイスしたり、内容のある指摘をするようになっている。自分やグループの問題点、疑問点があるが、具体的な解決策を考えることができはじめている。
	友達と力を合わせたり、自分からより積極的に学習に取り組んでゆくことができる。	運動に対して、他者と協力し、課題達成のための協力ができ始めており、取り組みが見れるようになってきた。その取り組みは、まだ不十分であるが、積極的になりつつある。
	自他の文化を尊重することができ、人に対する心遣いをすることができる	
	運動・スポーツなどの学習を行う上で、それらに対する熱意とそれらを行うための責任をしっかりと果たすことができる	授業の準備や片づけへなど自己やグループの責任を十分に果たそうとしている。それらに対する改善を試みている。
	自分や仲間との達成感を味わうために身近な目標作りを計画し、それを達成しようとするができる	学習カードの記録内容が、考えられたものであり、内容的な面で取り組みへの記録が課題解決のための方向へ向かいそうである。その内容は、自己の歩みを知る記録となりつつある。学習カードの提出は、ある程度はよい。
7-8	自分またはグループでの疑問や問題点、改善点に気づき、言葉や言葉以外の図などを用いて、基本的なコミュニケーションを使いながら伝えることができる	他者と協力をしようとする姿勢が十分に出ており、グループ成員で相談したり、気付いたことを互いにアドバイスしたり、課題解決に向けて内容のある指摘をするようになっている。自分やグループの問題点、疑問点があるが、具体的な解決策を考えることができ、他者に伝えはじめている。
	友達と力を合わせたり、自分からより積極的に学習に取り組んでゆくことができる。	運動に対して、他者と協力し、課題達成のための協力ができ、取り組みが見れてその成果が見出されるようになってきた。その取り組みは、十分満足できるものであり、積極的である。
	自他の文化を尊重することができ、人に対する心遣いをすることができる	
	運動・スポーツなどの学習を行う上で、それらに対する熱意とそれらを行うための責任をしっかりと果たすことができる	授業の準備や片づけへなど自己やグループの責任を十分にしっかりと果たそうとしている。他者についてもよい影響力を発している。
	自分や仲間との達成感を味わうために身近な目標作りを計画し、それを達成しようとするができる。学習カードなどの提出状況もよく、内容も充実している	学習カードの記録内容が、よく考えられたものであり、内容的な面で取り組みへの記録が、課題解決のための方向へ向かっている。インターネット等で調べたり、学習を深めようとしている。その内容は、自己の歩みを知る記録となっている。学習カードの提出は、十分なされている。

SL スラックライン  
 BB バランスボード  
 CB コンディショニングボール  
 WD ダブルダッチ

### (3) 授業を振り返って

(ダブルダッチ、スラックラインについて)

紙面の関係上、2つを取り上げる。

授業を振り返るとダブルダッチは、時間を要した種目といえる。授業内だけでなく、生徒達は昼休みなどを利用して男女で協力しながらかつ楽しみながら学習を続けていった。縄跳び自体が不得意な生徒もおり、互いに学び合い、助言しながら進められたものと言えよう。ロープに入るタイミングが難しいが、一度跳べるとその感激は大きい。



写真1. ダブルダッチ

スラックラインは、バレーボールコートとその支柱(計3本)を利用し、2ライン設置して途中に跳び箱を設置し、高低差を作った。

スラックラインの設置には多少時間がかかるが、生徒達は大変意欲的に取り組んでいた。スラックラインのもつ多少の難しさから跳び箱間の移動で渡り切ることができるとその達成感は大きいと思われる。



写真2. 左 スラックライン

## 7. 今後について

本授業研究は、まだ十分に調査・検討されておらず、今回は試みという形で提案したが、授業を実践してみて、教材として有効な点を多く含み、生徒達が取り組みやすさを持ったものであると実感した。今後様々な角度からその有効性の検討がなされなければならないと考えている。

また、MYPの視点からも今後検討を重ねていく所存である。今後とも多くの方々からご指導をいただき、さらなる継続的な研究を行っていきたい。

1 「運動指導の心理学」 杉原隆 (2003) 大修館書店 pp.12

2 「新しい体育の授業研究」 高橋建夫(1995) 大修館書店 pp.155

3 「新しい体育の授業研究」 高橋建夫(1995) 大修館書店 pp.155-156